

HTOにより期待できること

- ・骨切りすることで荷重軸を変化させ、疼痛を軽減させる。
- ・自分の膝が残り（関節温存）、関節の運動も良好である。
- ・日常生活も制限がなく骨癒合後はスポーツも可能となる。
- ・手術後正座できる可能性がある。

③人工膝関節置換術

(TKA:Total Knee Arthroplasty)

人工膝関節置換術は、軟骨がすり減って変形してしまった骨を切除して金属の人工関節に置換する方法です。対象疾患としては変形性膝関節症、大腿骨頸部骨壊死（軟骨下脆弱性骨折）とHTOと同じです。主に高齢の方で膝関節の軟骨の磨耗が膝全体に生じ、膝の変形が大きく、痛み・関節運動障害などが高度に生じた場合に行います。この治療で痛みが軽減し、日常生活への復帰が可能になります。人工関節は寿命がありますが、近年耐久年数が長くなっています。最近では手術をより正確にできるようアシストしてくれる器具（ナビゲーションシステム）を当院でも導入しており、より安全で正確な治療ができるようになりました。人工関節の分野は進歩しており、人工関節自体や手術器具、手術方法もよくなってきています。

リハビリテーション

リハビリテーションは整形外科疾患の治療で大事な過程の一つです。手術をした後も、リハビリを行わないと膝筋力増加や関節可動域の改善などの有効な機能改善を得ることができません。リハビリには、温熱療法や電気療法などの物理療法による除痛治療や、理学療法で関節可動域練習や筋力増強練習等を各疾患に応じて行い、膝関節の機能回復、増強を図ります。

例えば、膝前十字靭帯再建術前後には必ずリハビリにて筋力練習、関節可動域練習、荷重歩行練習、スポーツ復帰を目指すリハビリなどの機能回復練習が必要であり、手術的加療とリハビリ加療の両方を行ってこそ有効な治療になります。

当院にはこのようなリハビリを行う理学療法士、作業療法士などのスタッフが充実しており、膝専門疾患に対するリハビリ加療を支えています。

また、リハビリ室には膝不安定性を客観的に測定可能な器具である「ニーラックス」や筋力を測定する「isoforce」があり、膝動揺性や筋力に対する客観的指標として利用され、リハビリの進行やスポーツ復帰などの目安

として重要な役割をしています。

膝関節外科を紹介させていただきましたが、治療は医師をはじめ看護師、リハビリスタッフ、手術室スタッフなど多くのスタッフの協力のもと成り立ちます。今後もチーム力を上げるべく努力し、いろいろな部署との連携を充実させたいと考えております。

地域の先生方にも沢山のご紹介をいただき、また、ご無理なお願いを聞いていただいたりと、ご配慮いただき大変感謝しております。地域の医療機関との連携を大切に、今後も地域医療のお役に立てるよう、当院の整形外科、膝関節外科をさらに発展させていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



JMECC を開催しました

2月11日(日)当院にてJMECCを開催いたしました。

認定内科医試験では、救急蘇生講習会の受講はJMECCが推奨されておりCOVID-19 pandemic以前には数回開催していましたが、この度、久々の開催にこぎつけました。

前日は香川大学医学部循環器内科の辻哲平教授をディレクターにお迎えし、院内スタッフのためのICLSを当院に勤務中ないしは勤務歴のある内科医に対して開催しました。

2004年から実施されている初期臨床研修制度では、救急医療への取り組みが重視され、二次救命処置を含む救急蘇生講習会の受講がカリ

キュラムに含まれています。

日本内科学会は、認定内科医資格認定試験の受験資格に、救急蘇生講習会の受講を要件としており、救急蘇生講習会の受講機会を提供すべく、独自の策定基準で救急蘇生講習会を実施していくことが検討されました。救急医療の崩壊など、救急医療への社会的要請が高まっている実情を踏まえ、単に認定内科医試験の受験者に留まらず、すべての内科医がいかに救急医療に貢献できるのか、更なる検討が行なわれました。

その結果、救急医療に接することの少ない内科医が、心停止時のみならず、緊急を要する急病患者

副院長（救急科部長） 小田原 一哉

に対応できるよう、日本救急医学会策定の「ICLS(Immediate Cardiac Life Support)」を基礎に、日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した講習会を実施することとなり、「JMECC(ジェイメック: Japanese Medical Emergency Care Course、日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会)」と名付けられました。

最近の研修医は内科医志望が少なくなり、基幹型の研修病院でも近年は開催が難しいとお聞きしていますので、できる限り需要にお応えできればと考えております。

